



日本ナレッジ・マネジメント学会

目まぐるしい環境やニーズの変化に対応するため人間のナレッジをいかに有効に役立てていくか理論体系を確立し、その体系について世界各国と交流を深めていくことを目的としています。

日本ナレッジ・マネジメント学会 第 24 回年次大会 開催レポート

2021 年 12 月 5 日（日）、日本ナレッジ・マネジメント学会(KMSJ) 第 24 回年次大会が開催されました。

=====

◆◆◆ 第 24 回年次大会の概要報告

第 24 回大会は、2021 年 12 月 5 日（日）に予定通り Zoom オンラインで開催され、成功裡に実施されました。大会のテーマとして、「変化のビッグウェーブにおける多元的価値の共創」を掲げて、まちづくり DX、SDGs への取り組みから全体最適なスマート社会への転換に向けた未来のまちづくりと KM の果たす役割について、講演やパネル討論会から有益な知見と示唆が得られました。

一條会長による開会挨拶の後の講演とパネル討論会では、未来まちづくりの代表論者の笹谷教授と全体最適によるスマート化を推進している NEC の受川役員に西原理事を加えて、司会の中鉢教授が提示された 3 つの論点について、パネリストの回答や参加者を交えた質疑討論から有益な知見と対話の場が共有されました。

午後の部では 5 研究部会の報告があり、部会長から部会活動について詳しい説明と研究成果の発表が開陳されました。その後自由論題の研究発表が 3 本あり、興味深い研究成果の発表と司会者による適切なコメントと発表者の応答が展開され、有意義でした。

今大会を通して、大会テーマに掲げた SDGs、DX、SX と KM の親和性が高いことが確認されました。

また、全ての発表や熱い討論を通して、変化のビッグウェーブに適応する知の創造や KM が果たす役割と方向性の認識が共有されました。

今大会では、12名の大会世話人による万全な準備とチームワークにより、参加者全員が心理的安心感を共有して、密度の濃い講演やパネル発表・討論、部会報告、自由研究発表の場が共有されて、KMの知識創造スパイラルを体験できた大会になりました。

この素晴らしい大会報告集は学会メルマガ2月号で特集掲載し（※1）、また、講演とパネル討論会の抄録は学会誌第20号に掲載される予定です。

植木英雄（学会理事、第24回大会世話人代表）

※1 編集の都合上、オリジナル原稿から表現を微修正いたしました。メルマガ2月号すなわち本号となります。

◆◆◆本大会の概要を下記に示します。

■大会日時：2021年12月5日（日） 9：20～17：00

■大会テーマ：変化のビッグウェーブにおける多元的価値の共創
～イノベーションの社会実装に果たす KM の役割～

■大会テーマの背景と目的

地球環境問題やコロナ禍が続く環境下で、SDGsの掲げる持続可能な社会の実現目標が企業や社会で実践され始めております。国の掲げるカーボンニュートラルの実現を目指す技術の深化やDX化の進展も期待されています。そのような変化のビッグウェーブの状況下で、多元的な価値観や人間の共生と課題解決に向けた連携・共創で新たな価値を生み出す取り組みが注目されます。

そこで、本大会ではまちづくりDXへの取り組み、全体最適なスマート社会への転換に向けたイノベーションの社会実装に果たす KM の役割等について検討いたしました。

■プログラム

【午前】

9：00 開場、9：20～大会開始

開会挨拶：一條和生氏（本学会会長）

第1部：講演

司会進行 植木英雄氏（本学会理事・大会世話人代表）

9 : 30-10 : 10

基調講演： 笹谷秀光氏（千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長）

テーマ： 「まちづくりDX、SDGsへの取り組みから価値共創の未来まちづくりへ」

10 : 15-10 : 55

特別講演： 受川裕氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長
兼 スーパーシティ事業推進本部長）

テーマ： 「NECが目指す未来のまちづくりと全体最適によるスマート化」

第2部 パネルディスカッション

11 : 00~12 : 10

テーマ： 「まちづくりDXへの取り組み、全体最適なスマート社会への転換に向けた
イノベーションの社会実装の課題とKMの役割」

司会・コメンテータ： 中鉢欣秀氏（大会リーダー・東京都立産業技術大学院大学教授）

パネリスト： 西原文乃氏（本学会理事・立教大学准教授）

笹谷秀光氏（千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長）

受川裕氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長 兼

スーパーシティ事業推進本部長）

（チャットによる質疑：参加者全員）

集合写真

（昼休みも、マイクミュートをはずして（チャットも可）で交流できる状態とします。）

昼休み（12 : 15-13 : 00）

午後の部 13 : 00-15 : 10

研究部会の報告／発表 25分質疑含む（*5 研究部会）

- ① 東海部会 大西幹弘氏（本学会理事・部会長）「東海部会の活動報告」
- ② 知の創造研究部会 植木英雄氏（本学会理事・研究部会長）「部会活動の紹介」
事例発表： 酒瀬川泰孝氏（立教大学兼任講師）「DX時代の知識創造の人材育成」
- ③ 実践ナレッジイノベーション研究部会 西原文乃氏（本学会理事・研究部会長）、
穂積義剛氏（本学会理事・代表世話人）「部会の活動報告」

- ④ SDGs 研究部会 高山千弘氏（本学会理事・研究部会長）「実践 SDG s 経営研究部会 GCNJ との合同分科会報告」（ビデオレター）
- ⑤ 新産業革命研究部会 田原祐子氏（本学会理事・研究部会長）「[ナレッジ・マネジメント+New]&オープンイノベーションで新価値創造」

研究発表（自由論題）（20分報告+10分質疑）

研究発表1（15：15-15:45）

論題：「心理的安全性は知識創造スパイラルを生み出す」

報告者： 渡辺美砂子氏（エーザイ株式会社）、榊原惇志氏（ピースマインド株式会社）

司会・コメンテータ： 筒井万理子氏（本学会理事・近畿大学教授）

研究発表2（15：50-16:20）

論題：「地域型クリエイティブプロジェクトを通じた非営利組織の理念継承」

報告者： 但馬智子氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科協力研究員）

西中美和氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科教授）

司会・コメンテータ： 加藤鴻介氏（本学会理事・K C 総合研究所代表）

研究発表3（16：25- 16：55）

論題：「会社づくりにおける価値の共創—株式会社 ISOWA の風土改革—」

報告者： 池田章子氏（明治大学特定課題研究ユニット研究員）

司会・コメンテータ： 西中美和氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科教授）

閉会挨拶 植木英雄氏（本学会理事・大会世話人代表）

17：00 終了

=====

◆◆◆大会ハイライト

本レポートでは、午前中のプログラム（基調講演、特別講演、パネルディスカッション）についてハイライトし、当日の様子をお伝えいたします。

講演要旨ならびに資料は、演者のお二方（基調講演：笹谷秀光氏、特別講演：受川裕氏）のご厚意で公開をいたしますので、資料のお取り扱いにつきましてはご注意くださいよう、くれぐれもお願い申し上げます。

※当日の投影資料と、こちらに紹介する公開資料には一部差異が御座います。

■基調講演要旨：

演者： 笹谷秀光氏（千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長）

テーマ：「まちづくり DX、SDGs への取り組みから価値共創の未来まちづくりへ」

要旨

ポスト・コロナを契機に社会の「グレート・リセット（大変革）」が急速に進行中である。

変化の激しい時代を乗り越え、より良き回復(Build Back Better)のためには 2015 年に国連全加盟国の合意に基づく変革志向と未来志向でできた SDGs が必須である。喫緊の課題であるカーボン・ニュートラル社会の実現にも SDGs による経済・環境・社会の三位一体の解決策が役立つ。このような中で、政府が打ち出した「デジタル田園都市国家構想」は、地域の課題をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市」構築を目指す。「心ゆたかな暮らし」(Well-being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)の実現が要点であり、いずれも SDGs の基本である。また、間もなく開始される「スーパーシティ」は最先端の技術で規制緩和を交えた新たな「丸ごと未来都市」を狙うが、SDGs のパートナーシップが有効である。筆者は ESG 要請の高まりの中で企業が SDGs を使いこなし発信するための SDGs 経営支援ツールを開発した。今後の未来まちづくりは、これを活用する SDGs 経営企業などが、DX を推進しつつ、SDGs 未来都市などの自治体や、アカデミック、各種団体などと SDGs により協働して、共通価値を生み出すプラットフォームをつくり、的確に発信して「協創力」を発揮することが必要である。これが新たな持続可能なまちづくりにつながる。

⇒資料のダウンロードはこちらから

http://www.kmsj.org/wp/wp-content/uploads/2022/02/基調講演_笹谷氏.pdf

■特別講演要旨：

演者：受川裕氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長 兼 スーパーシティ事業推進本部長）

テーマ：「NEC が目指す未来のまちづくりと全体最適によるスマート化」

要旨

現在、我が国では、自治体の財政難や人口減少などの従来の課題に加え、COVID-19 の影響で表面化した教育や医療などのデジタル化や働き方改革等の課題が顕在化しています。そのような中、ICT 等の技術を活用して地域課題の解決と新たな価値の創造を図るスマートシティ/スーパーシティが注目を集めています。

NEC でもこの取り組みを推進しており、これまでスマートシティに関する国の標準化活動に貢献するとともに、「都市 OS」による複数分野間でのデータ連携や、データを利活用した先端サービスの実装により、都市の全体最適を進めています。「NEC 都市 OS」は、欧州発のグローバルスタンダードの FIWARE をベースとしたデータ利活用基盤機能に加えて、スマートシティ/スーパーシティにおける複数分野の先端的サービスの創出を効率的に実現するために共通的に必要となるさまざまな機能を備えています。これらの技術、知見、ノウハウ、実績、地域とのネットワーク等を活かして、地域の持続可能な発展を目指すべく、NEC は「世界に誇れる『地域らしい』まちの進化」をビジョンとして掲げています。

ビジョンの実現のためには、地域の経済基盤の活性化、そこに住む人・観光などで訪れる人の QOL を向上すること、そして、地域特有の課題をとらえ解決していくことが必要であり、その実現手段として重要なものの一つがデータ利活用であると考えています。地域の皆様とともに、データ利活用による持続可能な未来のまちづくりをより一層推進していきます。

⇒資料のダウンロードはこちらから

<http://www.kmsj.org/wp/wp-content/uploads/2022/02/特別講演 NEC 受川氏.pdf>

■ パネルディスカッションのテーマ

「まちづくり DX への取り組み、全体最適なスマート社会への転換に向けたイノベーションの社会実装の課題と KM の役割」



■ 第 24 回年次大会 パネルディスカッション発表要旨

現在、21 世紀型の思想や行動へとパラダイムシフトが起きている。アメリカを筆頭とする欧米の先進国や大企業、大都市がけん引してきた 20 世紀型の資本主義から、発展途上国や中小企業、地域の社会やコミュニティがそれぞれの存在意義と価値を発揮する思想と行動への転換である。これには、ナッジによる思考・行動の変容デザインとティッピングポイント、ナレッジのクリエーションとイノベーションの考え方が必要と考える。（西原文乃氏 筆）

司会・コメンテータ： 中鉢欣秀氏（大会リーダー・東京都立産業技術大学院大学教授）

パネリスト： 西原文乃氏（本学会理事・立教大学准教授）

笹谷秀光氏（千葉商科大学教授、未来まちづくりフォーラム実行委員長）

受川裕氏（日本電気(株) 執行役員 クロスインダストリーユニット長 兼
スーパーシティ事業推進本部長）

ご登壇の皆様には、終了後に参加者の皆様からオンラインながらも盛大な拍手が贈られました。



◆◆◆編集後記

コロナの影響いまだやまず、皆様におかれましても不安な毎日をお過ごしのことと拝察いたします。けれど、コロナを怖れて歩みを止めることはしたくない。当学会においても、年次大会をハイブリッド（リアル+オンライン）開催とするか議論のうえで、諸々の要因を鑑みて、今年もオンライン開催に踏み切った次第でございます。

果たして盛況、成功裏に幕を閉じることができまして、大変うれしく思っております。ご参加の皆様のご理解とご協力に心からの御礼を申し上げますと共に、コロナと歩む（=With Corona）ことに対し幾らかのヒントを頂けたように思っております。コロナ以前の環境に戻ることを想像しづらい中、未来をいかに舵取るか。どうぞ、これからも当学会を宜しく願い申し上げます。

さて、午後の部につきましては、まずは当学会の各研究部会の部会長から研究成果の発表をメインとする「部会紹介」が行われました。それぞれの部会には特色がございます。当学会 HP には部会ページがございますので、ぜひそちらも覗いてみてください。そして、ご興味を持たれたら是非ともジョインなさってください。

研究発表に関しては自由論題とし（20分報告+10分質疑）、1プログラムあたり30分というタイトなスケジュールでありましたが、いずれも活発な質疑にて、充実したものになりましたことを報告致します。個々のレポートは割愛致しますが、詳細に関してはプログラムをご参照いただきますようお願い致します。

本大会は、大会リーダーとして中鉢欣秀氏、そして大会世話人代表として植木英雄氏の尽力により運営されました。講演者の皆様、素晴らしい講演をありがとうございました。各プログラムに参加頂いた聴講者の皆様に、何らかのお気づきもたらされたことを願います。

以上をもちまして、日本ナレッジ・マネジメント学会（KMSJ） 第24回年次大会の開催レポートとさせていただきます。

編集担当：KMSJ 広報アドミチーム

編集後記文責：広報アドミチーム 清水美也子

発行：日本ナレッジ・マネジメント学会（KMSJ）会長 一條和生